

三、日本石炭坑夫組合

宮崎 太郎

イ、昨年八月より着工した筑豊労働會館も同志諸君の熱烈な配慮と協力に依り本館は総工費千貳百圓で竣工し、確實なる事務統制の上でのみ健全なる組合は確立されると確信し、筑豊の運動を正規の軌道に載せる決心で一月一日より會館竣工を機して厳格なる事務統制を開始し得たのは同志諸君の賜と感謝してゐる。

ロ、會長の異常な努力に依り製綱泉南支部の元阪順次氏が筑豊のオルグの中心として直方へ來任される相であるが、直方は炭坑街より一轉して町工場街と化しその數七十餘、職工千、徒弟工を合して一千二、三百の労働者が^増集し、總同盟のフラクションも相當

に生じ、先日の座談會にも十三、四名を出席せしめてゐるので、茲に有力なオルグを得れば組織擴大の希望には確信が持てる元阪氏と協力して大いに努力する決心である。

四、石油労働組合西戸崎支部報告 内野 福太郎

イ、私共の會社には熟練工が不要で雜工で作業が間に合ふので、最近博多河鐵道、ライジングサン社で土着の者を大量減首し、會社は之等の失業者を雜工として低賃金で使用し得るので、今回の昇給も不合理に斷行されたにかかわらず、不満を漏し得ず従業員は不安に晒されてゐる。

ロ、組合事業部としては共同購買を始め成績良好
五、コメント労働組合門司支部報告 越智 克巳